インターンシップ事業　実施報告書

氏名：　荘司一歩
受入機関:　トルヒーヨ大学
インターンシップ期間:　2017 年 7 月 24 日～11 月 8 日

1. 研究題目：　ペルー北海岸の先史時代における生業と世界観の形成

2. 概要及び成果：

1）実施した研究活動の概要

本事業では、ペルー共和国ラ・リベルタ州にあるトルヒーヨ大学に赴き、同大学博物館に収蔵されているクルス・ベルデ遺跡の考古資料の整理分析作業と、大学近郊にある同遺跡での発掘調査を実施した。その目的は、紀元前 5000 年ころにペルー海岸部で形成された初期定住漁撈集落の実態を明らかにし、そこで行われた生業活動とそれに基づく世界観および集団の形成過程を解明することにある。

クルス・ベルデ遺跡はペルー北海岸、チカマ川流域の沿岸部に位置しており、小規模な公共建造物を有する漁撈集落であったことが先行研究によって指摘されている。1998 年に、この遺跡に関する最初の報告を行ったのが、報告者の受入教員となったトルヒーヨ大学のセグンド・バスケス教授であり、これは簡易的な踏査に基づくものであった。その後、同教授による小規模な発掘調査が行われたものの、この調査に関する報告や収集された考古資料の整理作業は行われていなかった。

そこで、報告者はトルヒーヨ大学に収蔵されている同遺跡の資料の整理・分析作業を手始めに行い、写真や図面などの基礎データの収集に努めた。また、ペルー北海岸の考古学研究で著名な同教授に報告者の研究に対する助言を仰ぐとともに、クルス・ベルデ遺跡で過去に行われた調査データの共有を図った。これによって得られたデータや知見を活用して、同遺跡において 6 週間の発掘調査を実施し、研究を深化させるための新規のデータ収集を行った。さらに、この発掘調査によって得られた新資料の整理・分析作業をトルヒーヨ大学において実施し、データに関する議論を同教授と行った。

2）研究におけるインターンシップの位置付け

報告者の研究活動の基礎となるクルス・ベルデ遺跡の発掘調査とここで行なわれた過去の調査資料の整理を実施した本事業は、報告者の博士論文を作成するうえで欠かせない作業である。クルス・ベルデ遺跡は、本研究の対象となる時代に相当する活動の痕跡のほか、多様な時代の遺構がのこる複合的な考古遺跡である。そのため、先行研究で残された資料の整理・分析作業と調査者であるセグンド・バスケス教授の助言は、研究目的に沿ったデータの選別と良好で計画的な発掘調査を同遺跡で実施するうえで大きな助けとなった。また派遣先となった

トルヒーヨ大学は、ペルー北部の考古学研究を牽引してきた著名な大学であり、国際的な研究者が多く集まっている。そのため、同大学での研究活動を通じて、そうした研究者との交流を行うことができた、申請者の将来的なキャリア構築にもつながるようなインターンシップを経験することができた。

3）本事業における成果

トルヒーヨ大学に収蔵されている、過去の調査で収集されたクルス・ベルデ遺跡の資料の整理・分析を通して、同遺跡で行なわれた活動の時期を特定するために必要な土器資料と遺跡におけるその分布状況が明らかになった。セグンド・バスケス教授が設置した発掘区とそこから収集された土器は、クルス・ベルデ遺跡において形成期中期（紀元前 1200 年～紀元前 800 年）の活動が存在し、その活動が同遺跡南東部にあるマウンド状遺構の周辺に集中していることがわかった。そのほか、この調査で住居とみられる部屋状構造物が検出されていることから、同時代に相当する居住活動が行なわれていたことが明らかとなった。

上述の整理・分析作業で得られた知見をもとに、マウンド状遺構の形成過程を明らかにするために、発掘調査を実施した。その結果、このマウンド状遺構の建設は紀元前 4000 年にさかのぼり、食糧残滓の廃棄と埋葬行為、マウンド上に作られる床面の建設行為が反復的に繰り返されることによって少しずつ形成されていったことが明らかになった。こうしたマウンドの建設行為は、その廃棄物の量やマウンドの規模、社会階層差の見出せない埋葬などの点から、小規模な漁撈集団による協働で行なわれたものと想定される。この協働的なマウンド建設活動は、海産資源に依存した定住村落の基礎となる漁撈集団の形成を促すような共同的な実践であったといえる。

また、トルヒーヨ大学における研究者間の交流やセグンド・バスケス教授との調査データに関する議論を通して、クルス・ベルデ遺跡におけるマウンド建設活動は、紀元前 3000 年ころにペルー海岸部一帯で始まる巨大な公共建造物の建設活動に先立つ萌芽的なものであったという着想を得た。また、こうした活動と遺跡の形成過程は北海岸に特有のものであり、公共的な活動やモニュメントの創出過程には、地域的な多様性が見受けられる点も明確となった。

これらの成果は、古期（紀元前 5000 年～紀元前 3000 年）における、公共的な建設活動の存在を明白にした最初の報告事例であるといえ、アンデス文明の形成やモニュメントの創出などの先行研究に与えるインパクトは大きいといえる。

写真 1　発掘調査チームの集合写真

写真 2　発掘調査の作業風景

写真 3　考古資料の整理作業風景

写真 4　過去の調査によって出土した土器片